

a 学校教育目標	学び、高め合い、認め合う大和中生 ～夢や目標を抱き、地域・社会に貢献する 生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像)生徒が「大和中で学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域にとって「地域の宝」であると思える学校
----------	---------------------------------------------------	----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価						
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント		
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ			
豊かな学力	基礎・基本の定着・向上を図り、活用する力を育成する。	基礎・基本の定着を図るため、授業改善を推進する。	①育成すべき資質・能力を明確にし、「R80」を活用して振り返りの充実を図り、授業改善に努める。 ②「選択肢」と「自己決定」のある単元開発を行う。 ③学力に課題のある生徒への個別指導を、計画的に行う。	①「授業がよくわかる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】 ②「選択肢」と「自己決定」のある単元開発(各1つ以上)【研究】 ③定期テスト前に質問の時間を設け、個別指導を行う。【教務】	①80%	①92%	①90%	①111%	①A	①前回の結果同様に振り返りの充実がアンケートの結果に出ていると考えられる。今後も具体的な記述内容をイメージしながら授業改善を進めていく。 ②個別最適な学びの視点で授業改善することができた。また、冬季休業中の校内研修において単元開発した内容を校内で共有することができた。 ③試験前に質問の時間を設けて自習時間を確保したこと、疑問点を解消しながらじっくり落ち着いて試験勉強することができた。	①② 次年度も引き続き「資質・能力の育成」と「選択肢と自己決定」を軸に授業改善を行う。その際に「問い」と「問いに対する生徒の答え」も合わせて意識し研究を進めていきたい。 ③学習意欲を高め、試験前だけでなく日常的に学習する習慣をつける必要がある。	○			・授業改善への取組を期待している。 ・日常的に学習する習慣の大切さを生徒にも感じさせるようお願いする。 ・R80の活用について小中で研修することでより授業改善を進めたい。	
			生徒理解に努め、組織的な生徒指導・生徒支援を進める。	①「ふれあい教室」の有効活用、SCや関係機関との連携など、組織的な不登校支援を進める。 ②生徒が安心して生活できる場となるよう意図的、計画的な学級経営を進める。	①週1回の生徒支援(生徒指導)委員会【生徒指導】 ②「学校が楽しい」という生徒アンケートの肯定的評価【生徒指導】	①100%	①100%	①100%	①100%	①A	①生徒支援委員会は概ね毎週実施している。SCからの助言を得たり、SCによる全生徒対象の面談を計画的に実施したりして生徒理解に努めた。校内ふれあい教室の利用者は、現在8名である。効果的な使用状況と評価できる。 ②個に応じた丁寧な指導を心がけ、担任のみならず複数の教員で一人一人を支援していこうと工夫をしている。生徒が安心して学べる環境になるよう校内で学級集団作りに関する研修も行った。	①専門的な視点で指導方法を見直すことが必要な生徒が多数在籍している。今後も、SCからの助言が必要である。 ②集団全体を観察する広い視野を持ち、学校・学級の安心・安全な風土を醸成するための基盤として、個の特性に応じた丁寧な指導が必須であることを忘れてはならない。	○			・生徒支援委員会の実施がよい成果をもたらしていると思う。生徒指導については引き続き連携し、問題の未然防止を共に図りたい。 ・生徒支援委員会の更なる取組、成果を期待している。
			新たな価値を創造する資質・能力の育成に向けて、探究的な「総合的な学習の時間」を充実させる。	①探究的な学びを中核としたカリキュラムを開発・実践する。 ②これまで培ってきたキャリア教育の実践を継続・発展させる。	①探究的な学びを中核としたカリキュラム開発 ②「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」という生徒アンケートの肯定的評価【キャリア】	①100%	①50%	①75%	①75%	①B	①情報活用能力のルーブリックを修正し、情報活用能力を中核とした1年生のカリキュラムマップを作成した。 ②総合的な学習の時間を中心に課題解決学習に取り組んでいる。しかしながら、「課題の設定」の場面を設けることができていない。この結果を含めて、次年度の単元計画および評価規準を作成した。また、高等学校の総合的な探究の時間につなげるために、3年生で、グループでの探究学習に取り組んだ。	①各教科で特に情報活用の力が育成され、自立して探究学習が進められるように、全職員で各学年の単元計画を共有する。また、外部講師の方との事前連携を行い、目的を共有する。 ②次年度初めに、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」姿について、生徒と共有し、単元計画に基づいて授業を実施する。	○			・校内ふれあい教室が効果的に使用されており、よいと思う。 ・生活習慣について、生徒会中心の取組があるのは良い。当事者意識のある、なして関心のもち方は変わらぬと思う。 ・課題である「早寝」については、こども園・小学校・中学校で、今後も取り組みたい。 ・生徒や家庭との連携を大切にしてください。
豊かな心と健やかな体	積極的な生徒指導の推進と心身の健康の増進を図る。	基本的な生活習慣を確立させる。	①金のルール「早寝・早起き・朝ごはん・読書・挨拶・靴そろえ」の向上を図る。	①「金のルール」アンケートの肯定的評価【保健・生徒指導】	①80%	①88% (早寝早起き朝食平均)	①84% (早寝早起き朝食平均)	①105%	①A	①概ね早寝早起き朝食摂取の習慣は定着していると思われる。生活習慣の確立については、「元氣ウィーク」という取組を校区で続けており、本年度は睡眠に焦点を当て2回実施した。生徒委員会で、中学生に推奨される睡眠時間は8～10時間であること、日光やブルーライトによる影響等をまとめ、事前に全校集会で発表して取り組んだ。本年度の本校の平均睡眠時間は、第1回8時間2分、第2回7時間58分となった。昨年度平均7時間37分、全国平均約7時間30分(令和3年)を上回った。	生活習慣については家庭が基盤となる。今後も校区で連携し、「元氣ウィーク」が家庭の協力を得やすい取組となるよう推進する。中学校段階では、生徒自身の自立・自律も促すため、生徒委員会活動を活用し、意識の高揚および自分でできることを考え試していく機会となるよう工夫を続ける。	○			・なかなか全職員での取組や共有が難しい面が多くあると思いますが、焦らず、一步一步進めていって下さい。	
			地域に貢献する体験活動や自治活動を推進する。	①ふるさと大和を大切に地域貢献活動に取り組む。 ②生徒会活動、委員会活動を活性化させ、自治的な活動を進める。	①年2回以上、地域貢献活動の実施(部活動1回、学年1回)【生徒指導】 ②年2回以上、生徒会主催行事の実施【生徒指導】	①100%	①14%	①100%	①100%	①A	①全部活動が、学校周辺のクリーン活動を行った。それぞれの学年で、花植え、職場訪問、小学校・こども園訪問等、地域とのかかわりをもつことができた。大和町を大切に思う気持ちが行動に表れていた。 ②生徒会主催の行事を2回開催した。異学年での交流が上級生が手本となろうとする意識を芽生えさせ、生徒主導で自治的な活動になっていた。	①地域の方と共に活動できる場の設定を行いたい。実際に地域の方の思いを聞く場や逆に中学生の実態を知っていただく場を持つことで相互理解が深まるのではないかと。 ②大和中学校のよさである他学年との友好関係を今後も大切にしたい。	○			・生徒や児童と向き合う時間、教材研究のための時間をつくる働き方改革については、小学校も課題があり、情報交換しながら進めたい。 ・地域の行事や各種サロンなどに個人的に参加できるよう、地域からの働きかけも必要と思う。 ・しっかりと地域に根差した取組は素晴らしいと思う。 ・地域行事(祭りやとんど)に顔を出してくれると住民の方々には本当に喜ばれる。 ・生徒主導の活動は自信につながり、よいと思う。 ・先生方の健康面、家庭生活の大切さもふまえてやってください。
信頼される学校	地域・保護者と連携を深める。	業務改善を行い、働き方改革を進める。	・業務改善について日課を見直すなど校内の体制やルールを整理し、改善を図る。 ・定時退校日を徹底し、在校時間の縮減を図る。	①時間外勤務が月45時間以内の職員の割合(年平均)【教頭】	①80%	①75.6	①77.6%	①97%	①B	・研修や行事の終了時間を見直し、業務改善につなげることができた。 ・定時退校日には部活休養日を完全実施することができた。また、来客対応等の予定を入れないようにした。 ・積極的な生徒指導をすることが、結果として業務改善につながっている。	・見通しをもって計画的に業務をすすめていく。 ・業務分担について、担当で分担を調整しながら進めていく。	○				

【j: 自己評価 評価】A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】イ: 自己評価は適正である。  
ロ: 自己評価は適正でない。  
ハ: 分からない。